



京都市地域企業未来力会議

News Letter

令和2年
14号

「京都・地域企業宣言」からもうすぐ2年。8月31日(月)株式会社ウエダ本社交流スペース TRAFFICにて、今年度第1回目の未来力会議を開催しました。今回は初のオンラインにて開催。10組のビジネスアイデア発表のほか、ウィズコロナ時代の各社の取り組み事例の紹介と意見交換を行いました。



市長・顧問からの挨拶



京都市長
門川 大作

地域企業未来力会議は5年目を迎え、多くの取り組みが育まれている。未来力会議の立ち上げから御心力をいただいた全ての人に感謝します。コロナ禍のなか、情報を共有し、新たな挑戦をしていくことが大事。市民ぐるみ、事業者ぐるみで今と未来の社会課題に取り組まれることを期待したい。



京都府中小企業団体中央会
会長
阪口 雄次

現況厳しく過去に経験したことがないような状況のなか、こんな時だからこそ京都の地域企業が結集して知恵を出し合い、この難局を乗り越えていきましょう。新しい生活様式の構築に向けて新たな地域企業にとっての新たなビジネスチャンスにもなれば良い。京都府中小企業団体中央会も歩調を合わせて取り組んでいきます。

第一部 これまでに取り組まれたビジネスアイデアの共有

進行：風間 美穂（一般社団法人リリース）

第1部は3月の開催を延期した、昨年度の最終ビジネスアイデア及び現在の進捗について、10社のプレゼンテーションを実施。オンライン上で質問や意見、共感や応援コメントをオンラインシステムのQ&A画面に書き込み、意見を共有しました



01 つくるまなぶ京都町家科学館 | 株式会社 OpEL. 執行役員社長 倉橋 克彦



学び方、考え方、人との関わり方などの「21世紀型スキル」と理数系科目を横断的に学ぶ「STEAM」教育を組み合わせた生き抜く力を育む、習い事事業を2020年4月に開始。コロナ禍のため公園ワークショップを開催しKBSラジオ、京都新聞に掲載された。材料を事前郵送する「夏休みオンラインものづくり講座」も開催。京都市教育委員会に後援いただいた。町家科学館との連携事業も展開している。

02 京都生生塾 | 大原社会保険労務士法人 代表 和田 紘子



地域企業応援会を通じて人材採用プラットフォームから学びのプラットフォームへとプランが変わった。「生きる」「学ぶ」「働く」が分断された社会構造を打破し、一人ひとりの「心のあり方」、「ものの見方」を転換し地域の様々な人たちと生かす実践の場を作っていきたい。京都えびす大学（ZOOM開催）にて、9/26（土）10/24（土）11/21（土）に本取り組みをご紹介予定。参加いただける方への呼びかけがありました。

03 C-Cocktail | 京都信用金庫 大谷 洋平、中川 治己



社内の取引先派遣研修があり社内に様々な価値観が生まれ刺激を受けたことをヒントに「地域企業の従業員が互いの会社をトレードし合う研修サービス」を考えた。「有料職業紹介事業」免許を2020年6月に取得し、専門部署「京都人材バンク」を開設した。研修期間は1ヶ月程度。研修費用は無料を予定している。働き手と求人事業者を結ぶ採用事業や従業員、就業者の教育、就業規則の整備など労務アドバイスなどを予定している

04 よりどころログ | 株式会社キャピタル 代表取締役 河野 将之



事務所を左京区に移転する際に、芸術大学の学生の作品展示をいただき地域の良い反響があった。コロナ禍での学生の発表の機会や、学生の作品による地域の魅力循環の仕組みを、近隣の店舗でも広がり生まれた。京都市内での取り組みを広げていくために、場所の提供をいただけるお店、企業様。作品の作り手である左京区の大学生の募集がありました。

05 みんなのA型事業所をつくる | 株式会社MIRISE 所長 小島 拓也



中京区で雑貨のネットショップを障害者の就労制度を活かして30名ずつ2店舗を経営している。3店舗目を京都の地域企業と共に創り上げていきたい。お互いに頼り頼られ地域との関係を作り、違いを楽しむまちづくりを広げ、障害のある方の個性を生かしたストーリーやプロダクトを生み出していきたい。「小さなお仕事ディレクター養成講座」も検討中。8月に物件を確定。2021年の年明けに地域企業向け意見交換会を実施予定している。

06 琳間学校 | 株式会社hibana 代表取締役社長 松田 直子



10年前に京都ペレット町家ヒノコという木質ペレットなどの燃料店を経営のほか環境・森林バイオマスツアーも実施し、企業、親子などいろいろな人にご参加いただいている。社会全体で森を支える仕組みづくりとして子供向けの「琳間学校」の企画を進めている。琳間は茶道の用語。コロナにあり、観光は厳しいが森は密にはなりにくいので成長させていきたい。皆様の関わりをお待ちしています。

07 山の間伐と京都の産業の取り組み | 株式会社リトゥリバース 代表取締役 奥田 英二



昨年の未来力会議では、間伐材から生まれる木系について発表した。この1年間京都府下で開発を進め、麻、シルク、レースも目処がついた。自社製品の販売以外にはノベルティの開発など広がり、木系マスクは好評いただき手応えを感じている。コロナは国内の生産を見直す機会であり、木系は京都の山の荒廃を考え直す機会。京都の大学生が山の間伐し、そこからノベルティや製品をつくる企画について、参加の投げかけがあった。

08 工芸を支える磁場をつくる | 一般社団法人パースペクティブ 代表 堤 卓也



漆は1万年以上続く自然素材。木を植えることから始まるモノづくり。持続可能なモノづくりを通じて地域づくりをする、そんな輪を広げる「工芸の森」事業を進めている。4月には京北で東京ドーム57個分の敷地に漆の木を植樹し、ネットワークや拠点作る。学ぶ機会の企画を始めている。京都の森という地域資源を活用したモノづくりを促進していく。モノづくり企業様、SDGsに興味のある企業様等へ協力の呼びかけがあった

09 地域のお仕事博物館 | 鈴木モータース 代表取締役社長 鈴木 千鶴



子供に地域で仕事の体験を提供する。偏差値教育ではない新しい教育の価値を、地域で地域企業が作っていく。「地域のお仕事博物館 | 京都」として初回を2019年11月に椋原にて開催し子供33名が参加、合計94名の関わりが生まれ、参加者や保護者の満足度が非常に高かった。大学、銀行、経営者の会に向けて、協賛、共同のお声かけのほか、商店街を中心にした開催の受付のお知らせがあった。

10 京都好循環型農業 | 株式会社中嶋農園 代表取締役 中嶋 直己



これまでの報告として、地産地消マッチング会では賛同者を広げ生産者と飲食店をつなぐ機会を広げた。納品している京都市内の飲食店から生ゴミを堆肥化する取り組みも進み循環型農業の農業体験までご参加いただいた。副次的効果として飲食店以外の方々からのお声かけをいただくことが増えた。循環の輪をひろげ次世代につながる農業を追求について連携のお声かけがあった。

第二部 ウィズコロナ社会における各社取り組みの事例紹介

第2部は、ウィズコロナ社会における各社の取り組み事例をご紹介と、株式会社イワタ様に地域企業を代表いただき、自社の事業や、コロナを受けて感じられたこととお話しいただきました。その後、モデレーターの桜井尚典氏から3つの質問を投げかけ、参加者が感じたことや克服したい地域企業の課題を共有し、参加者が感じたことや、克服したい地域企業の課題を出し合いました。

ウィズコロナ社会における取組事例のご紹介

株式会社ヒューマンフォーラム
アパレル小売販売業@中京区

小売以外のビジネスに、一斉に社員が挑戦へ



幹部社員数名がyoutuberに！
人材育成メソッド
経営メソッドなどを発信
(5月)

アパレル初の通信制
高校のサポート校
「SPINNS高等学院」
設立 (8月)

BtoBサービスの
メニュー化へ
(9月)

アパレル小売業の株式会社ヒューマンフォーラムでは、WITH コロナになってから経営幹部の数名がユーチューバーを始められ、人材育成メソッドを発信されるほか、通信高校のサポート校も設立。BtoB サービスのメニュー化も進められています。

株式会社アイトーン
<https://social-innovation.kyoto.jp/learning/3906>
レンタルオフィス「GROVING BASE」@下京区

利用の契約プランを変更。全国無料配送から大口受注



一時的に完全会員制に
1日単位 (¥440/日) の契約プラン発表
お子様連れのお客も受け入れ

自宅で過ごす時間が増えた人向けに、
コーヒー豆50gの全国無料配布。
大口注文につながった。

株式会社アイトーンでは、コロナを受けて、運営するレンタルオフィスを一時的に会員制にプランを切り替えお子様連れでも利用ができるように変更された。またご自宅で過ごす時間が増えた方向けに50gの全国無料配布を行ったところ大口注文がうまれたとのこと。

IKEUCHI ORGANIC株式会社
<https://social-innovation.kyoto.jp/spread/3950>
オーガニックタオル販売@中京区

4/25から「ZOOMストア」をいち早くオープン



- 土曜と日曜、1組40分～1時間を目安に、1日5～7組を接客
- 代表の池内 (計司) も時帯が空いている時に接客に参加
- 客単価は、店舗での接客を受けた来店客の約2倍
- 2020年のタオルケット販売枚数が過去最高を記録！
自宅で過ごすアイテムに注目

オーガニックタオルの製造、販売を展開する IKEUCHI ORGANICはいち早く、オンラインZOOMSTOREを開催。普段は会うことがむずかしい、池内会長が接客にも参加され客単価は約2倍。2020年のタオルケット販売数が過去最高を記録

* 参考：本事例は京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK) 連続コラム「ピンチをチャンスに」に連載しています。(<https://social-innovation.kyoto.jp/learning/cat/interview>)

ウィズコロナ社会における各社取り組みの事例紹介 インスピレーショントーク

モデレーター 桜井 肖典 (一般社団法人リリース)

スピーカー



株式会社イワタ
代表取締役社長 岩田 有史

快眠術の専門家。1988年より睡眠の研究を始め、睡眠研究機関と産業を繋ぐ橋渡し役として活躍する。眠りのメカニズムに裏付けられた見識は、数多くのヒット商品を送り出す。活動は商品企画だけに留まらず、多くの異業種コラボレーション、大学との共同研究およびコーディネートなど快眠ビジネスにおける活動を推進している。著書：『なぜ一流の人はみな「眠り」にこだわるのか』（すばる舎）、『眠れてますか?』（幻冬舎）等多数。



ウィズコロナ社会になって、どのような会社の影響がありましたか？

東京の営業所は建物ごと閉鎖になり、まずはスタッフがオンライン上でコミュニケーションがとれる体制を作った。オンライン会議システムは、どのツールを使うか難航しつつ選定し、メールもWEBだけで使うようにした。営業は訪問せず対応ができるように体制を整えた。大学で授業を持っているが、今年の授業はすべて廃止になると連絡があり、それを聞いたときにこれは長引くと感じ、覚悟をした。

社員の安全をどう確保するか？事業をどう継続するか？どう雇用を維持するか？この順番で考えた。まずマスクを手配した。事業の継続は緊急融資で手元資金を作る。雇用継続としては、東京の店は建物ごと休みにな

り、雇用継続助成金を活用した。私自身で決めるだけでなく、士業の方のほか、経営者仲間にも聞いて決断をしていった。

どんな計画変更を余儀なくされましたか？

弊社は高級品が多いところミレニウム世代向けに新しいブランド「アンブリーチ」を3月11日にリリースイベントなど大きな仕掛けをしていたが、新ブランドは全くPRできなくなった。

考え方をえようとしたこと

新商品「アンブリーチ」は、PRが十分にできないなかったが商品を見直す機会になった。ミレニウムの世代はSNSの世代でもあり、弊社の販路と、ターゲットがミスマッチしていることがわかった。環境が元にもどらない、というのは腹を括らないといけないが、この社会になってから体験価値はもっと高まるのではないかと感じる。またデジタルに対する抵抗感がどの世代もなくなったように思う。顧客との管理も、関係を管理していく。今まで勉強不足だったと感じている。



株式会社イワタ様のインスピレーショントークをふまえ、3名1組になりオンライン場と会場とにわかれ、各社・各自が感じたことや、克服したい地域企業の課題を共有しました。

ダイアログ後、1組から話された内容の簡単なシェアをいただき

「危機ではなくチャンスだった」「オンライン実施やWEB広告がうまくいった。」「リアルの場の価値も高まっていく」「移動時間が減った。」「夜の経営者の会議にZOOMで参加できるようになった(子育て中の経営者)」「融資が落ち着いたら金融機関でもペーパーレスが進んだ」などの一例が共有されました。

本日共有された課題も参考に、次回地域企業未来力会議を進めて参ります。

お知らせ

●令和2年度の顧問の皆様をご紹介

経済団体，中小企業等の業界団体，金融機関の代表など，豊富な知識・経験や幅広い繋がりを持つ方々で構成。会議からの提案の具体化に向けたアドバイスをを行います。

阪口 雄次	京都府中小企業団体中央会 会長 / 公益財団法人京都中小企業振興センター 理事長
安藤 源行	京都府中小企業団体中央会 副会長
宇津 克美	京都府商店街振興組合連合会 理事長
津田 純一	京都商工会議所 中小企業活性化委員会 委員長
毛利 ゆき子	京都商工会議所女性会 会長
井上 誠二	京都中小企業家同友会 常任相談役
小野 善三	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長
土井 伸宏	京都銀行 頭取
白波瀬 誠	京都中央信用金庫 理事長
榊田 隆之	京都信用金庫 理事長 / 京都経済同友会 理事
天鷲 和之	日本政策金融公庫京都支店 国民生活事業統轄
安達 康宏	商工組合中央金庫 京都支店長

(令和2年8月31日現在，順不同，敬称略)

●第一回未来力会議、当日の映像について

8月31日地域企業未来力会議の映像公開は、フェイスブックページでお知らせします。

●「地域企業応援会」のご案内

未来力会議でのアイデアは勿論、市内の地域企業の皆様のアイデアの具体化に向けた活動を支援する「地域企業応援会」を月1～2回開催しております。以下、WEBサイトから予約可能ですので、是非御確認ください。



●今年度のビジネスアイデア募集について

2者以上の企業間連携によってウィズコロナ社会の課題解決を図るビジネスアイデアを募集します。

募集期間：8月31日～9月30日

提出方法：応募用紙に必要事項を記入のうえ E-mail、郵送、FAX 当にて

応募用紙が必要な方は、事務局までご連絡ください。

※未来力会議で発表頂くアイデアは、応募内容を確認のうえ決定します。

アイデアの具体化支援

- ・「地域企業応援会」

幅広い知見を持つコーディネータが、地域企業の課題解決に繋がるビジネスアイデアの具体化に向けたきめ細かな助言、地域企業のマッチング支援等の個別相談に応じます。

- ・「未来力創出支援事業補助金」

令和2年度未来力会議で発表された企業間連携により取り組むビジネスアイデアのうち、新型コロナウイルスによる課題解決を図り、地域企業振興に資する将来的に自走可能な取組を対象に、試行実施に必要な経費の一部を補助し、事業化を支援します。

●今後の予定

第二回地域企業未来力会議 10月30日(金) 予定

発行：京都市地域企業未来力会議 事務局（京都市産業観光局 地域企業イノベーション推進室）

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 075-222-3329 FAX 075-222-3331

URL <https://www.facebook.com/kyotoshichushokigyo/>

MAIL chiikikigyo@city.kyoto.lg.jp